



“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No. 31 〈作業間連携〉

タイトル： 作業間コミュニケーションで不測のリスクを減らせ！

【事例】

電源盤の点検保守工事が行われていたが、作業は予定より早く終了したので、作業員は次の作業場所を念のため確認に行くことにした。その際、残材や工具袋は片づけられて一か所にまとめられていたものの、作業現場に置かれたままになっていた。

一方、その上層階では、配管取り替え工事のため溶断を行うことになっており、グレーチングの下を覗いたが作業員がおらず作業が終了した様子だったので、予定より早く溶断作業を開始した。ところが、グレーチングの養生はしてしていたものの、溶断の火花が運悪く、下層階で行っていた作業の残材に引火してしまった。

【ヒューマンファクターの視点から】

建設工事や定期点検時には、現場において複数の作業が計画され、スケジュール上それぞれの作業が干渉しないよう事前の工程調整が行われています。しかしながら、時としてスケジュールどおりにいかない場合や、不測の事態が起こり得る可能性があります。特に、現場での火災発生という重大なリスクに対しては、起こり得るであろうリスクを予め洗い出し、その対応策を講じる等、細心の配慮が必要です。

今回の事例では、事前の工程調整が行われ上下での同時作業はないはずでしたが、ちょっとした不注意から残材等が放置されたことに加え、火災防止策が十分に行われませんでした。さらに、下層階の作業は終わっているとの勘違いによる安心感から、確認が不十分かつ作業間の連携が取れていなかったことが考えられます。

この対策としては、日頃から作業間のコミュニケーションをとることに心掛け、影響がありそうな近接した作業間では不測のリスクがないか事前によく話し合うとともに、予定を変更する時には念のための確認や声がけ等、コミュニケーションによるリスクの低減が望まれます。

作業間コミュニケーションにより、不測のリスクを低減しましょう！